

は じ め に

まずもって、第63号「あゆみ」が刊行されたことを会員の皆様と喜び合うとともに、貴重な実践等を寄稿していただいたり、刊行に携わっていただいたりした多くの先生方に感謝申し上げます。

<県小体研・日野郡大会、中・四国 岡山大会>

日南小学校、黒坂小学校、根雨小学校、江府小学校の日野郡全ての小学校が授業公開と実践発表に携わり、会場の一つが日野中学校になるような郡総出的な大会でした。予想を超える149名の参加者の中、「ああ！楽しかった。また新しいことに挑戦したいなあ。もっとみんなと体育がしたいなあ。」日野郡が掲げる子ども像が、ここかしこに垣間見える公開学習でした。



中・四国大会（岡山大会）では、西伯郡（水泳）と八頭郡（保健）が分科会発表を行いました。郡、県での発表を経ているだけに方向性がしっかりした、分かりやすい内容と参会者の声でした。このような機会を通して、各郡市が一つになること、授業実践が深まっていくことを喜ばしく思います。

<中・四國小体連の動き ～準教科書・保健教科書の改訂作業～>

現在、準教科書と保健教科書の大改訂作業は、詰めの段階を迎えています。準教科書では、高松での会議（泊を伴う会議も）は今年度9回で、県内では2回行っています。特に改訂のポイントとなっている「運動が苦手な児童への配慮の例」を重点に、言葉かけや指導方法の工夫についての取り上げ方に苦心しました。保健教科書では、昨年度担当県であった鳥取のメンバーが文科省に出向いて、語句・表記等の指導を受け、一部修正を図っています。また、高松では9回（泊を伴う会議も）の会議を行っています。

二つとも私たちの意が十分に汲まれ、フルモデルチェンジされた内容になります。準教科書は31年度に、保健教科書は32年度に私たちの手元に届くのです。それを心待ちにしています。

<35年度 中・四国研究大会（鳥取大会）の開催地>

33年県大会（鳥取市）、34年県大会（中部）、35年中・四国大会（米子市）の開催を決定しようとしています。3年間を東・中・西部で大会を回していくことこそが、全県を巻き込みながら鳥取県が一つにまとまると考えるからです。その研究の深まりが、県内多くの学校に浸透することを期待しているのです。その結果、体育好きな児童や「できなかったことができた」経験をする児童が増えることになるはずです。そして、体育科の目標にある「生涯にわたって」「豊かなスポーツライフを実現」に必ず繋がると信じています。

宮崎大学・三輪教授から、「運動が苦手な子どもの指導」について講演と実技で学びました。体育保健課・池田係長、西垣指導主事には、多くの郡市で授業研究会や分科会発表で指導助言をいただきました。誠に、ありがとうございました。

我々の県小体研、より広い中・四國小体連という組織や事業等を通して、「人」「授業」「実践」と出会い、多くの先生方が自身の力を伸ばされることを切に願っています。

会 長 長谷川 誠一